

● ● ● ● ● 日本共産党市議団の一般質問 ● ● ● ● ●

3千円など所得に応じたシルバーパスを



佐々木とも子市議

佐々木とも子市議は、コロナ禍から市民のくらしと営業を守る支援策について質問。生活困窮者への住居確保給付金は、最長1年の期限が過ぎても経済状況が改善されない場合、生活保護申請へ速やかにつなげるよう求めました。豪雨・土砂災害に備えた避難施設の「3密」対策では、屋内型簡易避難用テントを全施設に配備し、一世帯当たり4平方メートルを確保すると防災安全部長が答弁。シルバーパスの利用改善は、中間所得層に向けた利用料軽減枠の新設をすでに東京都市長会から都に要望しているといきいき生活部長が答えました。

理不尽な校則の見直しを求めて



田中美穂市議

田中美穂市議は、町田市立中学生の「学校でツーブロックが禁止」「シャツの第1ボタンを開けただけで指導された」といった声を紹介し、生徒や児童の意見を聞いて、小中学校での校則や学校の決まりなどについて、適宜見直す必要を求めました。指導室長は、校則の内容については、絶えず積極的に見直す必要がある、校則の見直しについては、子どもたちの主体性を培う機会としても重要だと答弁しました。

コロナから市民の命を守る市政を



細野りゅう子市議

細野りゅう子市議は、コロナワクチンの迅速でスマートな接種や予約方法への改善を求めて質問しました。予約受付時の相談・代行窓口の設置やワクチンの接種が困難な要介護者や障がい者への接種会場へのタクシー料金補助を求めましたが、検討していないと答弁。さらに障がい者、高齢者通所施設への訪問接種を求めました。小中学生の五輪観戦計画を中止するよう求めましたが、都教委の感染対策などの内容が示された後検討するという答弁で、現場や保護者の声を聞いて中止を判断するように求めました。また、生理の貧困について質問し小中学校のトイレに生理用ナプキンを配備するよう求めました。他市の状況を見て研究するという答弁でしたが、実施を決めた自治体は直ちに配備したこと指摘し、早急に実施するよう求めました。

高齢者住宅協力員に労働者としての待遇を



殿村健一市議

殿村健一市議は、第1に、都営・市営住宅等の高齢者の生活協力員（LSA）と支援協力員の法的地位と待遇改善を求めて質問。協力員には労働者としての実態があるにもかかわらず、部長は、「有償ボランティア」であり、労災や残業代支払いへの考えはないと答えました。芹ヶ谷公園“芸術の杜”（仮称）国際工芸美術館整備事業及び都計道3・4・14号線整備事業について、版画美術館と芹ヶ谷公園を破壊する「計画」は撤回せよと質問。部長は、市民と丁寧なやり取りをしながら進めていくと答弁しました。町田市消防団の役割と報酬等の支払い問題について質問。部長は、報酬は、団員個人に支給されるよう対応すると答弁しました。

「まちだ未来づくりビジョン2040」に足りないもの
—「市民の命と暮らしを守る」という自治体の責任と決意

町田市基本構想・基本計画「まちだ未来づくりビジョン2040」策定の審議が14回の特別委員会で行われ、日本共産党は、討論をして反対。議案は、賛成多数で可決しました。2022年から2040年を視野に入れた本ビジョン検討に必要な問題意識として、共産党は2点指摘しました。1つは、コロナパンデミックから何を学ぶのか。新自由主義を排し、自治体本来の運動で作らなければなりません。

未来づくりビジョンは、市民の運動で作らなければなりません。

「命と暮らしを守る」こと。
2つは、「町田市5カ年計画17～21」の失敗の教訓をどう生かすのか。図書館の削減や学校統廃合反対など市民の声が反映されていないことです。真的に映されています。

40億円もの巨費を投じる芹ヶ谷公園“芸術の杜”（仮称）国際工芸美術館整備事業は、開設34年の歴史を持つ国際版画美術館の建物、機能と芹ヶ谷公園の自然を壊す重大な内容で、「計画」の見直しを求める市民の運動が広がっています。こうした中、版画美術館設計者は、4月20日、町田市長を相手取り、本工事差し止めの「仮処分命令申し立て」を東京地裁立川支部に行いました。「申立書」には、版画美術館とその一帯の庭は、設計者の「思想、感情が表現された芸術作品であり、世界にも知られた版画美術館として、気品に満ちた文化的・芸術的



芹ヶ谷公園内の市立国際版画美術館

建物と評価されている」とあります。町田市による版画美術館と庭園の破損工事から保全の必要性を訴えています。市民と設計者に反対している町田市の「計画」は白紙撤回すべきです。

**市立国際版画美術館は
「設計者が、市の工事差し止め「申し立て」
気品に満ちた文化的・芸術的建物**

無料法律相談
8月4日(水)・25日(水)
9月8日(水)・22日(水)
午後2時～5時 町田市役所3階 共産党会派室
要予約 ☎ 042-723-6312まで
※場所が変更になる場合がありますので、必ずご予約ください。

生活相談は、いつでもお受けします
724-4030 日本共産党会派室

**0～2歳児保育所増設(南地域)、
高齢者肺炎球菌ワクチン負担軽減**

町田市の2021年4月の待機児童は76人。前年比で54人減少しましたが、0～2歳児の待機児童が特に多い南地域へ小規模保育所（2022年4月開所予定）を整備する予算が計上されました。また東京都の補助金を活用し、高齢者肺炎球菌ワクチン接種の自己負担額を半額相当（1500円～2500円）に軽減する予算も盛り込まれました。日本共産党は引き続き待機児ゼロ、高齢者の命と暮らしを守るために頑張ります。